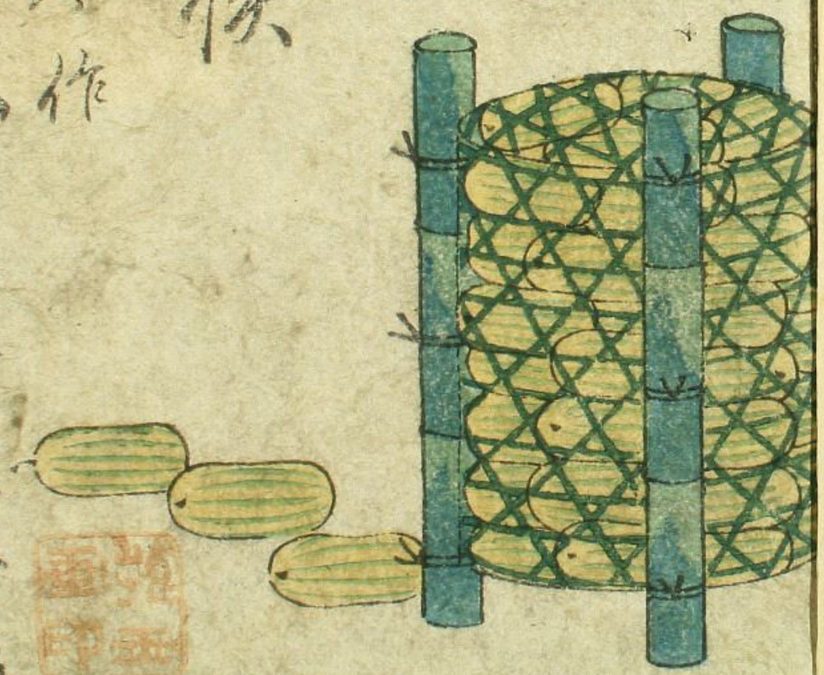
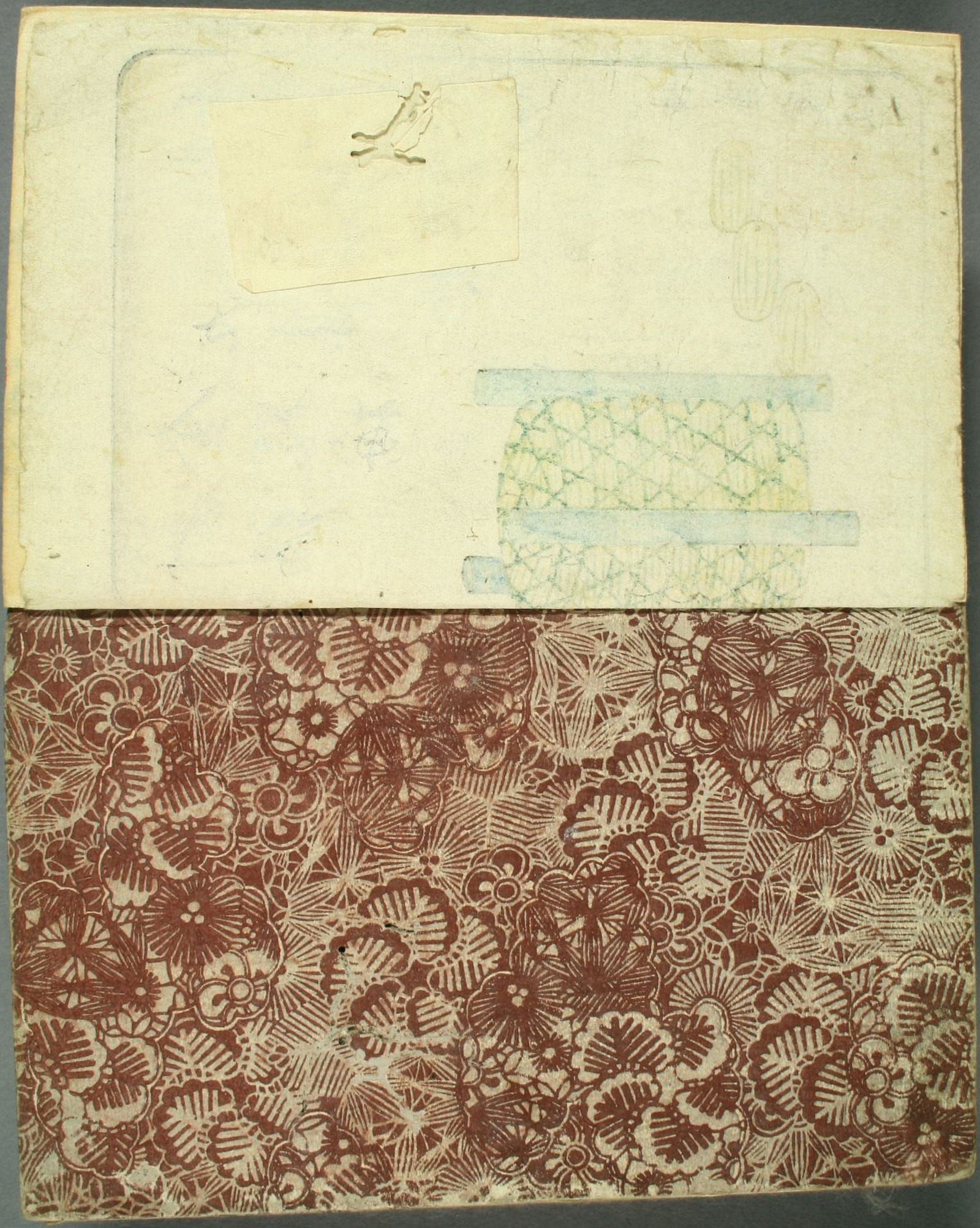
D
1012
9

逍遙文庫
文庫6
953
9

新編
金瓶梅
九集
上帙
曲亭馬琴作
香蝶樓国貞画
甘泉堂板



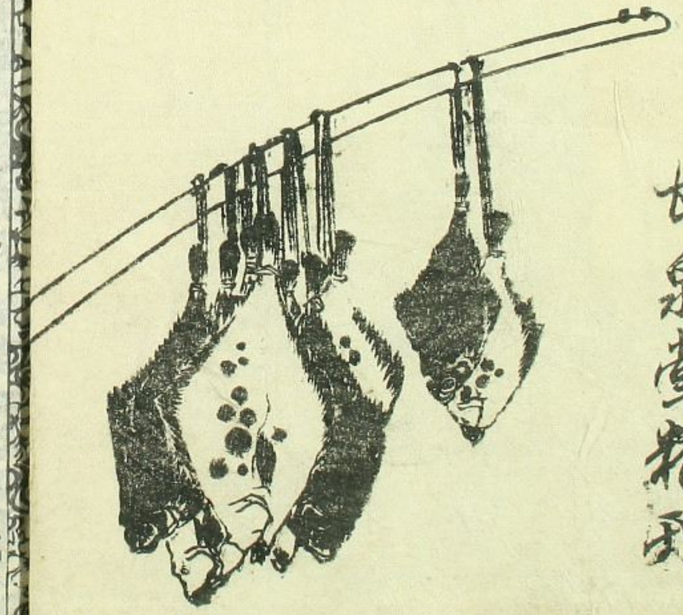
文庫6
953
9



新編金瓶梅 第九集 上帙

曲亭馬琴編
香蝶樓精畫

江戸日本橋通一丁目地本問屋
丹泉堂精刻



若夫花鳥風月の如き世の人是を愛ずるこそ。是を愛ずるに各差あり。詩歌の為に愛ずる者と風流士とは飲食官紙の為に愛ずる者と疎人とは賣買利を射る為に愛ずる者い賈堅之介が中に花に風雨の暴を怕れ鳥に桓山の哀別を慨しを風に萬籟の吼を厭ふべく月に浮雲の障ありと觀る者い幽靜悟道の達者にて花鳥の為に知己といはん。然ば果敢る菓子物語を好も亦是に似たり。趣向の巧みなく勸懲の正を欲ぶ者と真の看巧者とは又巧拙と勸懲とを管ずして只浮るを勾欄下の看官とも又唯画を見て文を見ざる只人に話さずして其崖畧を知らく欲まい是白髮の小兒にて書肆の得意るもあるべし。抑這新編金瓶梅も彼二者の看官あるん左にも右にも勝者の強に因扇と抗ざるべかい。

天保十三壬寅年春正月吉日

盲文人馬琴自序

春の魚第一

名所都鳥
白魚を見る
墨田河

愚山人

再出 千早

夏の魚第三

初堅魚

負ふ

走る

競ひ

狂齋

川北一郎

山路檀作

夏の魚第四

碟よむ夕河岸

涼し竹筴魚の反

信天翁

宇津七郎

阿漕安兒一郎

秋の魚　第五

再出　女官　琴柱

腮藁の秋の海の

羊肉人

伴當

冬の魚　第六

元夢　三出東戸屋　西啓

膳太し

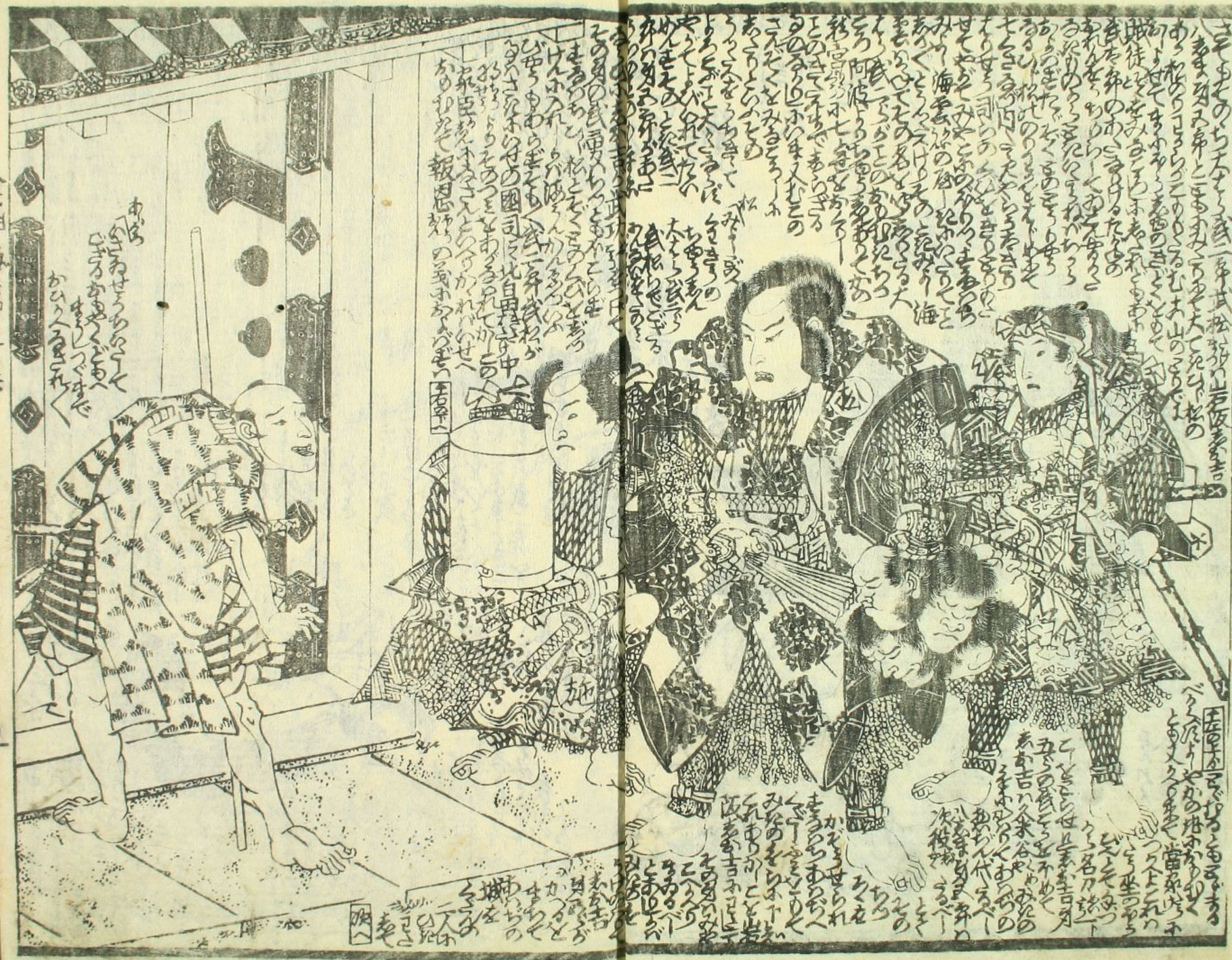
元夢

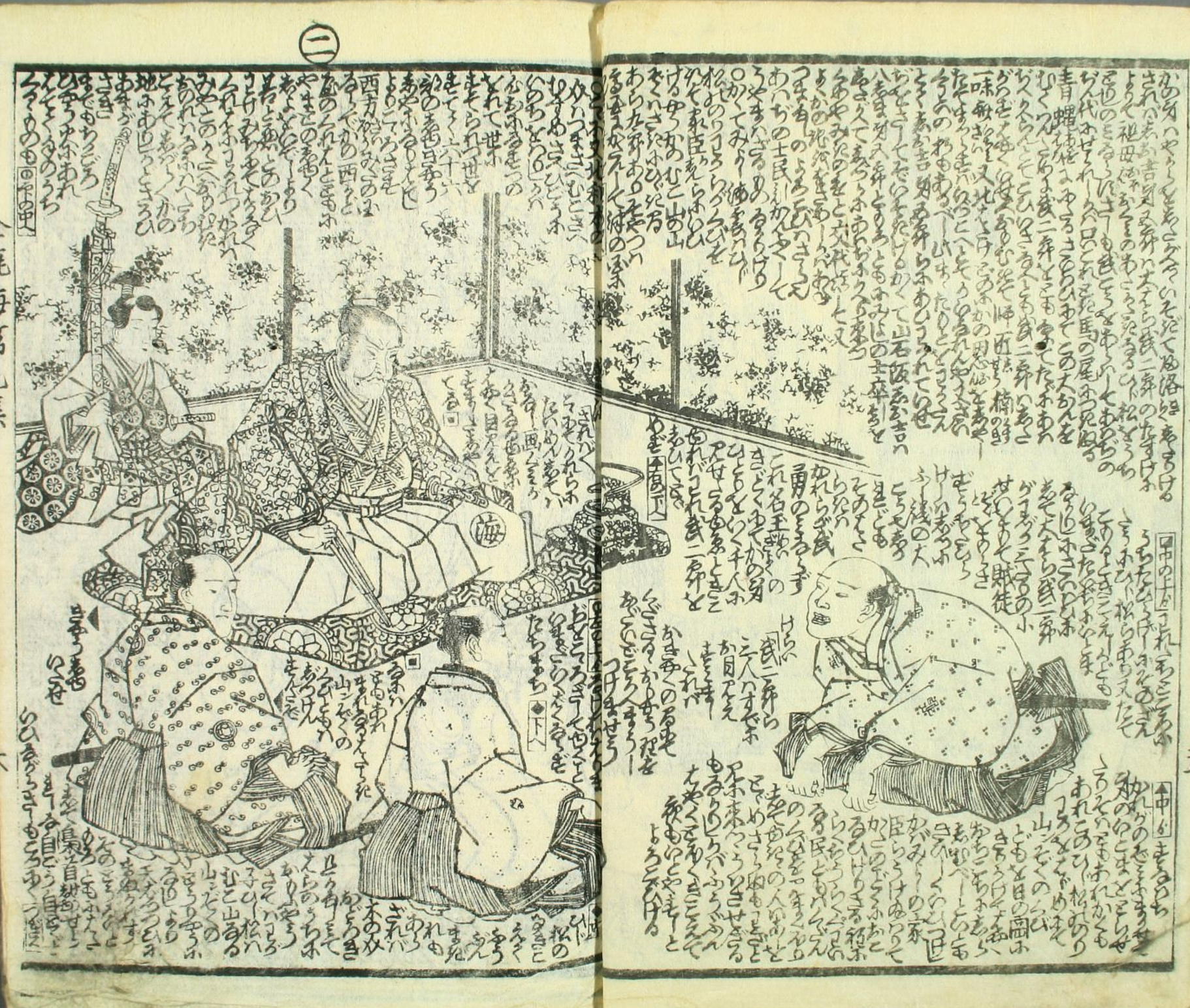
つのの

河豚汁

蓑笠

元夢　三出　金蓮

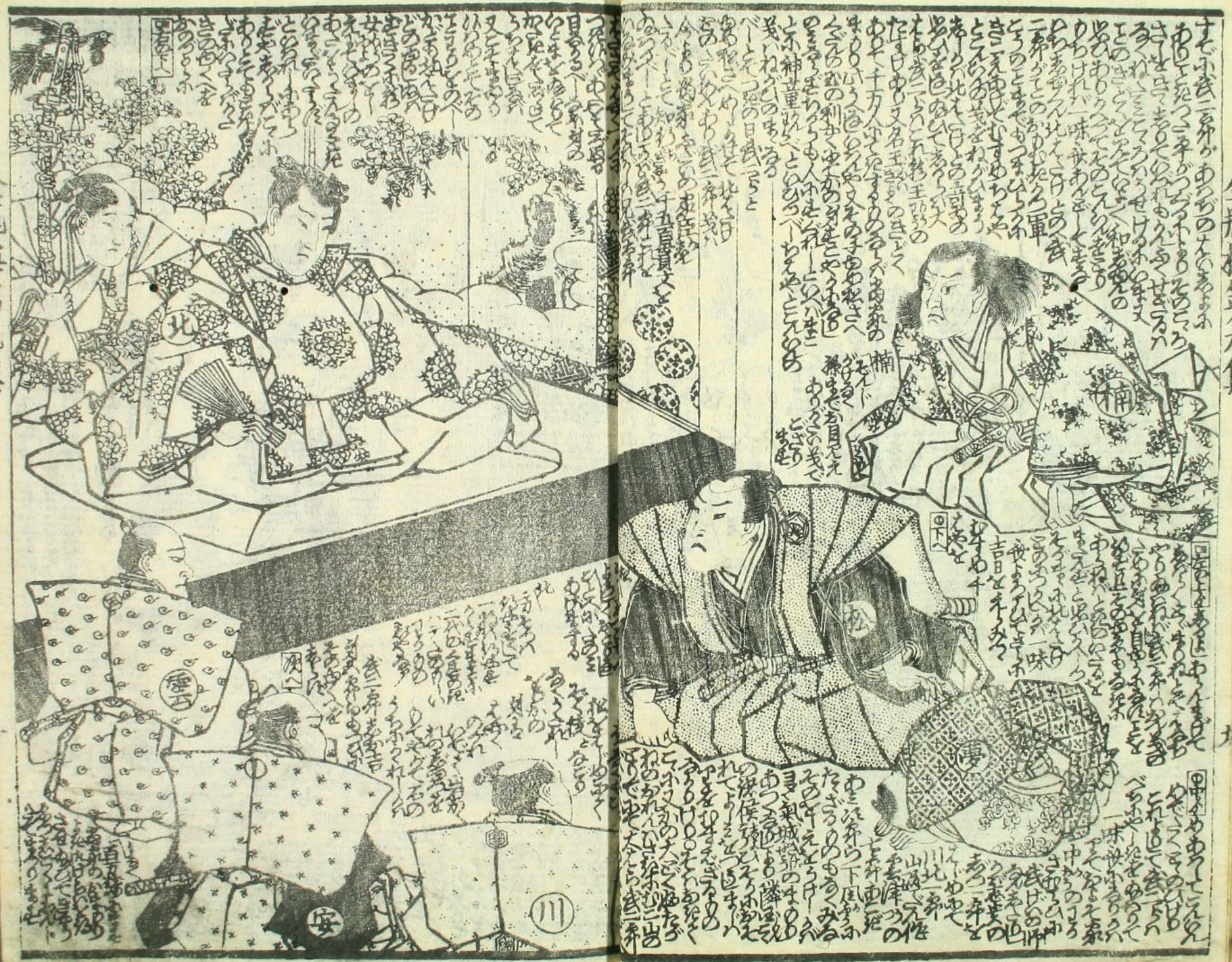




木
潮

千
松
夢
桶
石
寿

松
山
川
千
梅


楠
松
夢
北
亀
安
川

顔
顔

金花毎年九三
白
蓮
陸

馬琴作

家傳神女湯 婦人のみち一包代百銅
法秘の妙薬
秘の良方にて婦人のみち一包代百銅
上のつぼのもの
精制長寿應丸 大包代金三朱中包代五朱小包代一朱
熊胆黒丸子 婦人の毒の妙薬 一包代半

新編金瓶梅十集 曲亭馬琴作 一陽齋豊國画

女郎花五色石臺 初編曲亭馬琴作 四冊 一陽齋豊國画

児雷也豪傑譚七篇 美圖垣笑顔作 一陽齋豊國画

菊花壇養種 初篇全一冊

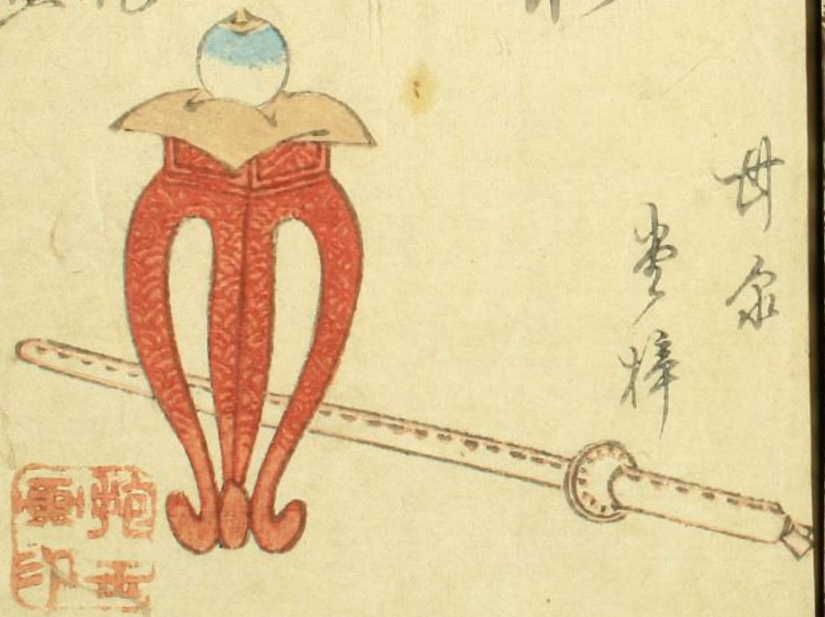
新編

歌麿梅

九集

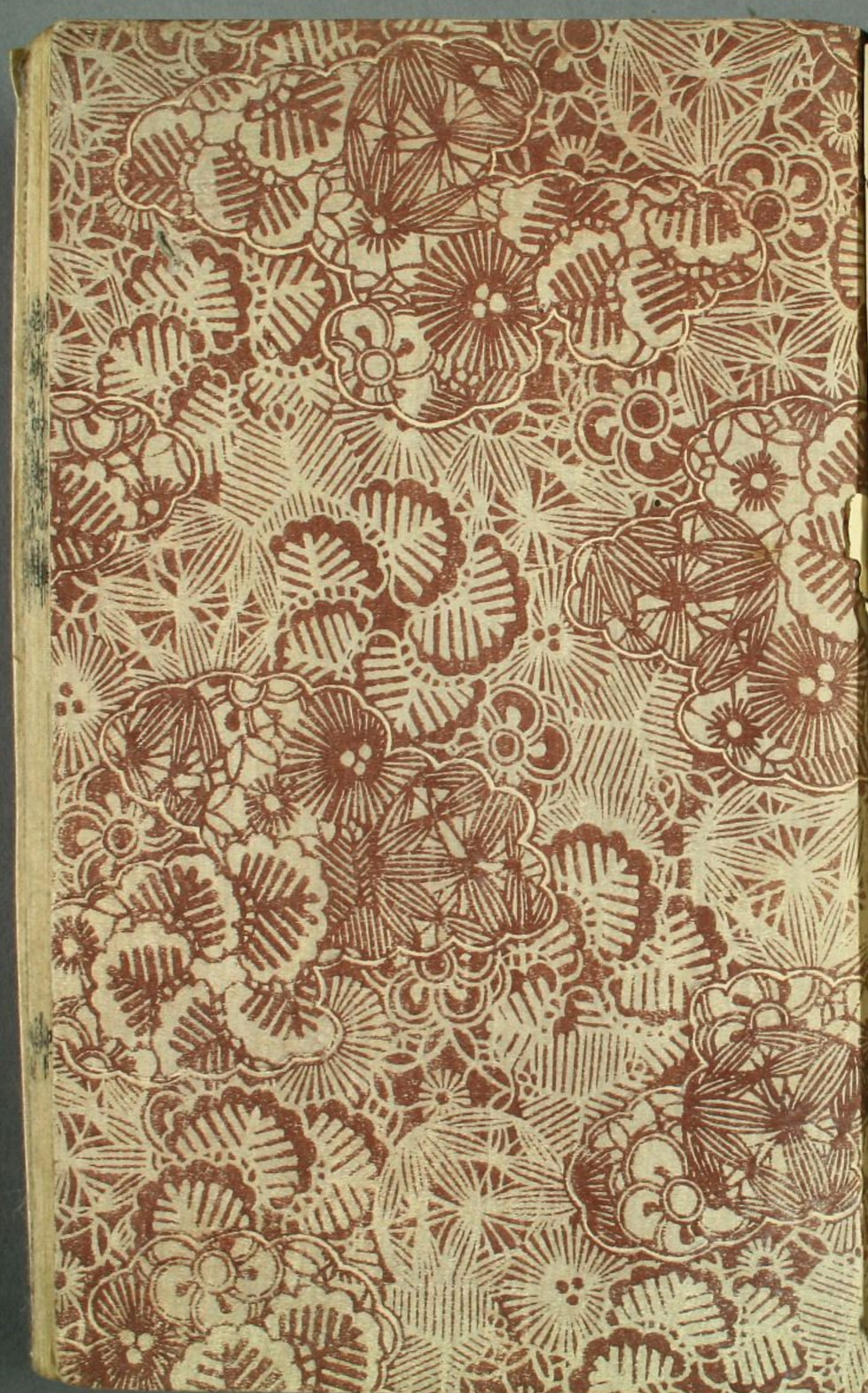
下帙

如意玉兎飛
清輝獨貞兎



丹家
歌麿

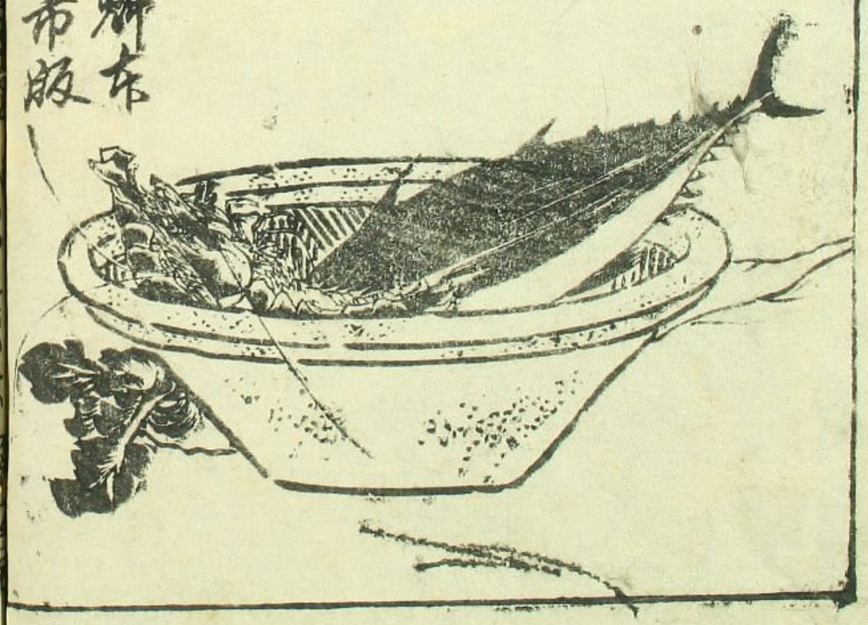
帝國圖書館藏印



曲亭菊口授編
香蝶楼精画

新編金瓶梅
第九集
下帙

天保壬寅孟春刷布
續刻精刷芝泉市版



蓮

陸
呉
白

寒

寒
暖

六
力
角
寒

牛
上へ
角
猪
角

楠
松
実
座
孫
丸

千
夢
実
石
楠

実
牛

背戸せとより忍びやく出てゆくを見て
ちゆうい
その者りけんの帽子針
ぬちゆうみけんを
あとさけびもあまた
ダーてくれけりちのぐ
るぐやられ又十集ふつだらぐ
さんとふ愉快ゆたのくえるべれば
人のこりあれば作者の自ふふ
又考えるせえをもちこんでこのあ
うちのつくせるとあるあくう めでたく

作者曰このところの口けぬ十集ふあり
もちろんこれむこんるるる人
ようーくさるまべー

家傳神女湯 病人ちのみち 一包代百銭
秘の良方やてるりうちのみち即功あり
よのつぼの灸出一茶とあるりうぐるとくさんた
精製奇應丸 大包代金二朱中包代百文
小包代五トもたるふ仕
効あるあるせい方をつまりう
家傳の加けんをはもされば即功神のエー
熊胆黒丸子 ふまのい計ふたを一包代五ト
婦人つぶ薬の妙ふ ふとふも用ふ一包代
製某本家四谷ふの町 瀧澤氏

湖月百人一首抄庫

源氏絵尽 女今門入

繪本名頭武者部類 前北斎筆 全

源氏絵尽 中本 全

蘭山先生著 女八男に美ふ二冊

女用玉結 文字とあげこ

大本一冊

鶴賀新内正本所

和泉屋市兵衛

玉百人一首

百人一首小倉抄

早稲田大学図書館
011688991180